



出席について思うこと

図書館分館長 篠田 雅路

長らく教員として授業を担当していますが、出席率が100%になることはほとんどありません。各学生に学生証をカードリーダーにかざしてもらって出席を取っていますが、出席を取ってすぐに退室する学生もいます【学生証の読み込む時にピッと音がするので「ピ逃げ」と言うそうです】。ときどき、授業後に「欠席してすみませんでした！」と明るく言いに来る学生がいますが、いつも「謝る相手が違うんだけどなあ」と思っています。

まず、歯学部の学費を考えてください。学生全員、日本の勤労者の平均年収を超えた多額の学費を収めてくれる保護者の方がいらっしゃるおかげで授業を受けることができるのです。授業に欠席するのは、自分のためにその方々が収めてくださったお金をゴミ箱に捨てているようなものです。また、教員は学生諸君が歯科医師国家試験に合格できる学力を効率よく学修できるように、いろいろな工夫をして授業を行っています。授業をしっかり理解できれば歯科医師国家試験は絶対に合格できます。そんな授業を軽々しく欠席してしまうと、近い将来の自分自身を苦しめることになります。これからは、授業に欠席したらみなさんの保護者の方と自分自身に謝りましょう。そして、しっかり授業を聴いて歯科医師国家試験合格しましょう。そんな皆さんを教員は全力でサポートします。

(教授 生理学講座)



歯学部開講式

令和7年度歯学部開講式は、4月3日（木）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において、新入生128名を迎えて挙行されました。

飯沼利光歯学部長からの式辞があり、横江順同窓会会長及び織井弘道後援会会長が祝辞を述べられました。続いて在校生を代表して西出怜央さん（第6学年）が「歓迎の詞」を、新入生を代表して渡邊沙莉衣さんが「誓いの詞」を述べました。



大学院歯学研究科開講式

令和7年度大学院歯学研究科開講式は、新入生26名（うち社会人10名）を迎え、飯沼利光歯学研究科長をはじめ関係教職員出席のもと、4月7日（月）本館大講堂（創設百周年記念講堂）において挙行されました。厳粛な雰囲気の中、飯沼利光歯学研究科長からの式辞、続いて浅野正岳研究担当からの祝辞がありました。新入生を代表して稲見亜紀さんが「誓いの詞」を述べ、式終了後には修学及び研究等についてガイダンスが行われました。

既卒生に対する国家試験合格支援活動について

卒後教育担当 萩原 芳幸

国家試験合格支援活動小委員会では、3月の国家試験解説動画の配信を始め、臨床研修歯科医のマッチング支援、必修対策ミニ講義、学内外講師による国家試験特別講義、既卒生の希望に合わせた特別実習等を行っています。また、委員一人が6～7名の既卒生を担当し、質問事項への対応や国家試験願書作成のアシストなど、個々に寄り添った対応を行っています。年末年始には会議室を開放して休暇中でも勉強できる環境を整えるなど、国試直前まで全力でサポートしてまいります。

（教授 歯科補綴学第Ⅱ講座）

新入生128名の内訳

男子70名（55%）、女子58名（45%）、現役68名（53%）、既卒等60名（47%）、一般選抜入学者82名（A方式69名、N方式第1期5名、同第2期4名、C方式第1期3名、C方式第2期1名）、学校推薦型選抜（付属高等学校等）20名、（公募制）7名、校友枠選抜18名、外国人留学生選抜1名
出身高校数106校（外国の学校等を除く）：日本大学習志野、日本大学第二 各4名、日本大学、大妻中野、秀明、江戸川学園取手 各3名、日本大学豊山、日本大学豊山女子、千葉日本大学第一、土浦日本大学中等、長野日本大学、

目黒日本大学、獨協、東洋英和女学院高等部、東京女学館、巣鴨、西武学園文理、城北（私立）、淑徳、志学館高等部、桐蔭学園、暁星 各2名 ほか

出身高校の所在地県別入学者数：東京48名、埼玉14名、神奈川12名、千葉10名、茨城8名、長野6名、栃木4名、福島、静岡、愛知、兵庫 各2名、青森、群馬、新潟、富山、山梨、大阪、岡山、広島、香川、長崎、鹿児島 各1名
 外国の学校等 7名

登院式を終えて



松山 貴紀

このたび、登院式を無事に迎えることができたことを、心より嬉しく、そして誇らしく思います。CBT、OSCEの合格に向けて4年生までに様々な勉強をしてきましたが、正直、気持ち

はまだ学生でした。しかし登院式を経て、「患者様に向き合う医療人」としての自覚が芽生え、身が引き締まる思いです。登院式では、先生方や先輩方からお言葉をいただき、歯科医師という職業の責任とやりがいを感じました。今後の院内実習では、「患者様のために自分は何かができるか」を常に考え、誠実に向き合う医療人を目指したいと強く思いました。

院内実習が始まり、初めて入った診療室の雰囲気は、今まで自分が知っている大学の雰囲気とは全く異なり、そこには緊張感と現場特有の空気がありました。困っている患者様がここに訪れているのだと改めて実感し、自分の中にある責任感が強く揺さぶられました。患者様の表情や、スタッフの方々の動き一つひとつに意味があることを肌で感じ、気持ちが引き締められました。また、これまで講義や部活動で接してきた先生方が、実際に患者様と向き合っている姿は、今までに見たことのない一面でした。先生に対する患者様の安心感を実際に目の当たりにして、心の底から「かっこいい」と感じ、自分もそんな歯科医師に早くなりたいと強く思いました。院内実習を開始することができましたが、これはゴールではなく、国家試験に向けた新たなスタートです。患者様の笑顔や安心に寄り添える歯科医師になれるよう、一步一步成長し、いつの日か「この先生で良かった」と言ってもらえる歯科医師になれることを目指して、日々の学びに真摯に取り組んでまいります。

最後になりますが、先生方、先輩方におかれましては日頃より多大なるご支援、ご声援をいただき誠にありがとうございます。これからもご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。(第5学年)

クラブガイダンスについて



クラブ協議会会長 川崎 泰誠

4月12日に日本大学歯学部でクラブガイダンスが行われました。本学部には体育系・文化系あわせて多くのクラブがありますが、新入生にとっては自分に合ったクラブを見つける良い機会となったか

と思います。

クラブ活動を行い、文武両道を目指すことで、学生生活をより充実させていくことが期待されます。また、先輩との縦の繋がりと同期との横の繋がりを大切に、人間関係の幅を広げることも大切だと感じています。こうした経験は、将来歯科医師として必要なコミュニケーション力や協調性を育むことにもつながります。

ぜひ皆さんには何かしらのクラブに参加し、仲間とともに多くの学びや成長を得て、充実した大学生活を送ってほしいと願っています。(第5学年)

球技大会を終えて

球技大会実行委員長 山口 大翔



球技大会は天候に恵まれ、無事開催することができました。思うように準備が進まず、悩んだこともありましたが、多くの方々の支えにより、なんとか形にすることができました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

今年度は教職員の部が復活し、例年にも増して盛り上がりのある大会となりました。ご参加いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

一方、参加者人数の面では依然として課題が残っています。次期委員長を中心にこれから検討を重ね、より多くの人に参加したくなる大会を目指していった欲しいと願っています。

最後になりますが、開催にあたりご協力、そして参加いただいた教職員と学生の皆様に、深く御礼申し上げます。来年度もより良い大会が開催されるよう、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。(第4学年)

第118回歯科医師国家試験を終えて

学務担当・学習指導委員会委員長 林 誠

第118回歯科医師国家試験は、令和7年2月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり実施され、本学からは第6学年の卒業予定者105名が受験しました。コロナ禍が一段落したこともあり、今年も試験当日の朝には国家試験試験対策に携わった教職員やクラブの後輩らによる盛大な応援のもと、受験生たちは試験会場である東京工科大学蒲田キャンパスへと向かいました。

3月14日(金)午後2時に厚生労働省より合格発表がありました。本年は全国で3,039名が受験し、合格者数は2,136名であり過去10年間で最多となりました(新卒1,657名、既卒479名)。昨年も過去最多でしたが今年はそれをさらに上回り、全体の合格率も昨年より約4ポイント上昇しました。とくに男女別合格率においては、女性の合格率が男性の合格率よりも約14ポイント高くなっているのが特徴です。一方で、合格基準に変更はなく、必修問題は絶対評価で80%以上の正答が必要とされ、その他の合格基準は相対評価により毎年変動しており、依然として歯科医師国家試験合格のハードルは高い状況です。

全国の合格率は70.3%(新卒84.0%、既卒44.9%)であり、国立大学80.4%、公立大学77.2%、私立大学67.2%という中で、本学の合格率は62.7%(新卒71.4%、既卒48.4%)でした。本学の新卒合格率は昨年を0.6ポイント上回り、私立歯学部17校中第12位でした。厚生労働省は出願者数も公表しておりますので、受験者数との差分である「出願はしたものの受験しなかった(できなかった)者」、つまり、未受験者の人数および未受験者率を算出できます。本学の「未受験者率」は13.9%(私立歯学部平均は19.9%)で、私立歯学部17校中7番目の低さでした(下図の棒グラフ)。これは本学の卒業率の高さを示す結果となります。また、厚

生労働省公表の合格率は計算の分母として受験者数を使用しておりますが、出願者を分母とすると、卒業できなかった6年生を含む合格率である出願者合格率を算出できます(下図の折れ線グラフ)。出願者合格率の全国私立平均は64.7%であるのに対し、本学は61.5%で、こちらは私立歯学部17校中第9位でした。

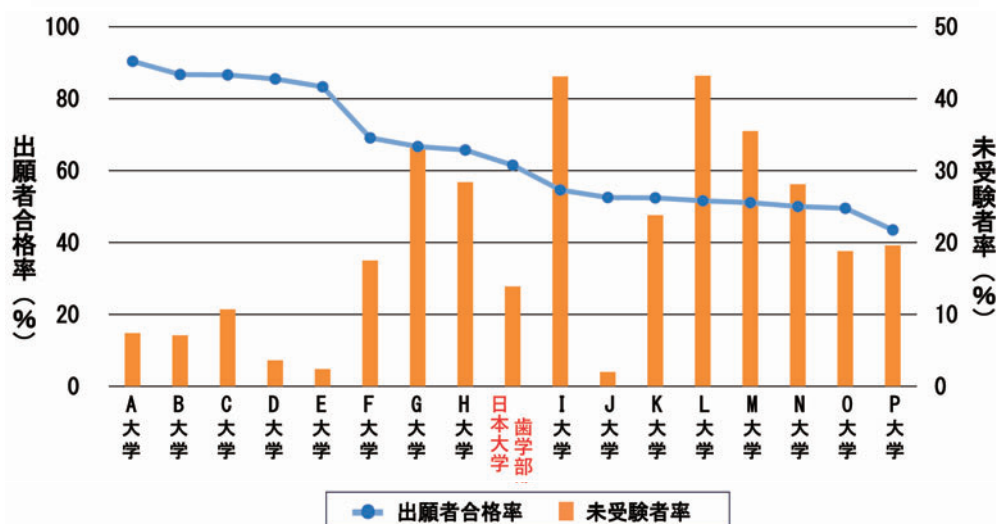
本学では、歯科医師国家試験合格の可能性が見込まれる学生を積極的に卒業認定し、受験機会を確保する方針を継続しております。今後もこの方針を堅持しながら、厚生労働省の公表する合格率および出願者合格率のさらなる向上に努めてまいります。

令和7年度の取り組みとしては、学生への個別指導に重点を置いた班編成をし、学生と教職員間の密なコミュニケーションや連携を取りやすくしました。また、授業動画のオンデマンド視聴など、コロナ禍で構築されたデジタル環境は継続し、より質の高い教育の提供を目指してまいります。

近年の国家試験では、実際の臨床現場での経験がないと対応が難しい臨床実地問題が多く出題される傾向にあります。そのため、教室での学修のみならず、第5学年時の臨床実習を通じて、臨床現場を具体的にイメージできる力が不可欠となっています。また、教科を超えた科目横断的な問題や基礎と臨床を融合した内容も増えており、低学年からの継続的な学修習慣の確立、幅広い知識の修得、さらには応用力の育成が国家試験合格に重要となっています。学生の皆さんには、国家試験が6年間の学修の集大成であることを認識し、国家試験合格という明確な目標意識を持ちながら、学生生活を過ごしていただきたいと思います。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)

第118回歯科医師国家試験 出願者合格率(新卒)



研修歯科医採用について

卒後教育担当 萩原 芳幸



日本大学歯学部附属歯科病院(以下、管理型臨床研修施設)では学部教育で習得した歯科診療に関する知識、技能および態度を臨床の場に結びつけるシームレスな指導のために、9種類の研修プログラムを設定しています。

プログラムは研修する施設と期間で分類すると以下の2つに分類されます。

1. 管理型臨床研修施設と協力型(I)臨床研修施設(歯科診療所等)を各6か月間研修するプログラム

このプログラムは、研修歯科医が管理型臨床研修施設における主たる研修を口腔外科・保存科・口腔診断科または小児(希望選択)・補綴科を前期または後期に選択します(8種類の研修プログラム)。

2. 管理型臨床研修施設を主に1年間研修するプログラム

このプログラムは、管理型臨床研修施設の主たる研修を総合診療科で実施します。研修歯科医は1年間の中で5日以上(30日未満まで)の協力型(II)臨床研修施設(歯科診療所)に出向します。また、管理型臨床研修施設における研修では、各診療科との連携や島しょ地区(伊豆諸島)での離島歯科診療の研修を経験することで幅広くかつ多様な研修を行えます。

本年度からの募集定員は計109名に減少しましたが、当歯科病院臨床研修プログラムは他大学からの研修希望者が毎年増加傾向にあります。

当歯科病院で臨床研修を行うためには当歯科病院が実施する選考試験を受験し、その後マッチングする必要があります。選考試験として①書類審査、②面接、③筆記試験を実施いたします。①書類審査では5年次までの学業成績などを評価します。②面接は本学部6年生ならびに既卒生は免除されますが、在学中の生活態度(受講態度、出欠席状況、学内外における学校行事への参加状況および表彰歴)などを評価します。他大学卒業の受験者については出身校とは異なった環境で研修を行うため、当歯科病院で研修を行うに足る人物であること、また積極性と協調性を有することなどを重要視しています。③筆記試験は本学および他大学の現役生および既卒生を対象に例年7月中に実施します。その後、選考試験の結果をマッチング協会に提出し、10月下旬にマッチング協会から当歯科病院にマッチした109名のリストが送付されて仮契約を行います。

第6学年の皆さんが国家試験に合格し、来年度の歯科医師臨床研修を当歯科病院で受けられることをお待ちしております。(教授 歯科補綴学第II講座)

歯科医師臨床研修を終えて

小林 温史

総合診療科は、専門性に富んだ指導歯科医が在籍しており、互いに連携した包括的な診療を学べる場です。“もっと学びたい”、“多くの臨床経験を積みたい”という強い気持ちがあれば、まさに成長のチャンスが無限に広がっています。実際、指導歯科医の的確なフィードバックと豊富な症例数に支えられ、自分の技術や診断力が着実に向上していくのを日々実感しました。専門領域に留まらず、総合的な視点と幅広いスキルを身につけることで、自信をもって包括的な診療に取り組める力が養われます。本気で臨床力を磨きたい歯科医師にとって、総合診療科は最高のステージです。ぜひ、この環境であなたの可能性を広げてください。(本学部卒業)



小柴 美穂・近藤 杏衣

1年間の大学病院での臨床研修では、自ら診断・分析を行い、治療計画を一から立てたうえで、指導医の先生方に確認していただき、アドバイスや起こりうる事象について一緒に検討していただきました。また、相互実習や模型での練習を重ね、フィードバックをいただいたうえで、患者さんの処置に臨みました。一つ一つのステップで丁寧に指導していただけたことで、安心して診療に取り組むことができました。治療計画どおりに進み、患者さんに喜んでいただけたときは大きな達成感があり、自信にもつながりました。大学病院だけでなく、協力型臨床研修施設や離島研修、歯科検診など、さまざまな現場でも研修を経験させていただきました。私たちは他大学出身だったため、臨床研修の開始にあたっては不安もありましたが、指導医の先生方や同期、そして充実した研修プログラムのおかげで、かけがえのない1年間を過ごすことができました。(他大学卒業)

京都校外研修

学年主任 浅野 正岳

令和6年度第5学年の校外研修が、令和7年3月6日と7日の2日間にわたって執り行われた。男子学生40名、女子学生34名に引率者らを加え、総勢85名の参加となった。3月6日(木) 9時10分に京都駅前に現地集合し、バスでモリタ製作所に向かうA班と、二条城および清水寺を經由してモリタ製作所に向かうB班とに別れ、2台のバスに分乗しての研修スタートとなった。その後A班は伏見稲荷および二条城を、B班は伏見稲荷を散策した後に、宿舎である「お宿 いしちょう」に集合し、1日の疲れを癒した。19時に大広間での夕食となったが、アルコールもふるまわれ、楽しく大いに盛り上がる事ができた。夕食後はそれぞれ解散となったが、元気のある学生は、連れ立って京都の町をさらに散策したようであった。翌日は8時からの朝食を済ませ、点呼を取ったうえで解散となった。毎年のごとであるが、この時期はちょうど学年が入れ替わる時であり、進級発表前のひと時をそれぞれの仲間で過ごせたことは、学生相互の親睦を深め、忘れられない楽しいひと時となったに違いない。また現地集合前に、関西方面への旅行もかねて東京を出発した学生もあり、彼らにとっては国家試験受験への備えが本格化する前の、ほんのひと時の息抜きの時間となったことと思われる。研修期間中、けがや事故などなく、大過なく過ごせたことは幸いであった。研修を快くお引き受け頂いたモリタ製作所の皆様、素晴らしい時間の作出にご協力いただいた教職員の皆様、また金銭的にご援助頂いた後援会の皆様には心から感謝申し上げる次第である。

(教授 病理学講座)

佐藤 智尋

校外研修委員を務めました佐藤智尋です。本研修は、歯学部5年次に毎年実施されており、歯科企業の見学を通じて歯科材料や機器に対する理解を深めるとともに、学生間の親睦を図ることを目的としています。

今年の研修では、前半に京都を代表する名所である伏見稲荷大社、清水寺、二条城などを巡り、歴史的文化に触れる貴重な機会となりました。美しい景観と日本の伝統文化を肌で感じることで、改めて日本の歴史とその奥深さを実感することができました。

後半には、株式会社モリタ製作所を訪問しました。最新の研究成果に基づいた歯科用ユニットや材料に加え、歴代の歯科ユニットの変遷や技術の進化にも触れることができました。歯科医療の発展には、歯科医師だけでなく、技術者をはじめとする多くの専門家が関わっており、それぞれの情熱と努力によって支えられてきたことを強く感じました。また、実際の作業工程について丁寧にご説明いただく中で、ものづくりに対する熱意にも深く感銘を受けました。普段の学生生活では経験することのできない体験を通して、医療機器に対する理解をより深め、歯科医療に携わる者としての意識を一層高めることができました。

1泊2日という短い期間ではありましたが、先生方を含めた学年全体で語り合い、思い出を共有するとともに、国家試験に向けての意識を新たにし、仲間との絆を深める貴重な時間となりました。

最後になりますが、本研修の実施に際し多大なるご支援を賜りました後援会の皆様、またご引率いただいた先生方に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。(第6学年)



第1学年オリエンテーション

軽井沢から始まる学生生活

第1学年担任 湯口 眞紀

4月18、19日、軽井沢研修所にて新入生オリエンテーションが開催されました。仲間との交流を深める充実した研修となりました。

初日は、いくつかのグループワークを実施しました。「バースデーチェーン」では、言葉を使わず誕生日順に並ぶというシンプルなルールの課題に取り組みましたが、試行錯誤しながらジェスチャーを駆使する様子にもそれぞれの個性が垣間見られました。グループワーク全体を通じて積極的にコミュニケーションを図り、互いの理解を深める姿が見られ、学生同士の関係がさらに深まっていることを感じました。

2日目の旧軽井沢散策は天候に恵まれ、それぞれがお土産を手にバスへ戻る姿から楽しい時間を過ごしたことがうかがえました。この2日間の経験が今後の学生生活の大きな力となることを願っています。

(専任講師 解剖学第Ⅱ講座)

担任としての軽井沢オリエンテーション

第1学年担任 工藤 圭紘

「軽井沢から始まる学生生活」をテーマとした第1学年オリエンテーションが開催され、担任として初めて参加しました。自身が第1学年の学生として参加して以来、15年ぶりの軽井沢研修所。行く道中のバスの中では、自己紹介を行ったり、各々雑談をしたりと約3時間の道のりはあっという間でした。そして、研修所へ徐々に足を踏み入れた瞬間、当時の記憶の一部が蘇ってきました。それと同時に、新鮮な気持ちにもなりました。

オリエンテーションの企画として、入学してから2週間、「はじめまして」同士もいる中でのグループワークや大学院生による学生生活を充実させるアドバイス、グループでの旧軽井沢散策など、オリエンテーションを通して、互いを知り、今後の学生生活への期待が大きくなる絶好の機会となったと思います。

(助教 歯科放射線学講座)

第1学年オリエンテーション

島田 裕太郎

入学してから2週間が過ぎた頃、軽井沢研修所でオリエンテーションが行われました。仲間同士、お互いを知り、絆を深める良い機会になりました。本学部は積極的にグループワークに取り組む学生が多

く、その姿をみると自然と自分の気持ちも高まります。今回のグループワークでは、テーマを決めて相手が回答しそうなことを想像するというゲームを行いました。まだ話をしたことのない人に対しては、見た目や勝手な思い込みで、偏見を持ちがちですが、ゲームを通して、もっと相手と話してみたいという気持ちが湧いてきました。将来、歯科医師になるにあたり患者に対して偏見を持つことは信頼を損なうことになります。しっかりとコミュニケーションをとった上で人との信頼関係を築いていく大切さをあらためて考える時間となりました。

渡邊 沙莉衣

新しい環境に身を置いた私たち1年生は、1泊2日の日程でオリエンテーションに参加した。先輩方のお話を聞き、本学部への所属感を高めると同時に、より良い学生生活を送るためのヒントを学んだ。2日目の軽井沢散策は、新しい仲間達と親睦を深める絶好の機会となった。宿泊行事ということもあり、普段の学校生活では見られない仲間の一面を知ることができた。私は開講式で新入生代表挨拶を行った。このお話を頂いたとき、滅多にない機会だと思い喜んで引き受けた。代表というと真面目で責任感が強いイメージがあるが、オリエンテーションを通して実際に話をした仲間達に本当の自分を知ってもらうことができた。壇上で話すことに不安もあったが、今では貴重な経験をさせて頂き、とても感謝している。



第57回 全日本歯科学生総合体育大会



歯学体正評議員 田中 協大

今年度も、全国の歯学部・歯科大学が一堂に会する「全日本歯科学生総合体育大会」が開催されます。前回大会で日本大学歯学部は総合準優勝を果たし、これまで9回の総合優勝と12回の準優勝という素晴らしい実績を誇っています。大会を通じて得られる経験は、結果に関わらず皆さんの成長に繋がります。嬉しい成果だけでなく、悔しさや挫折も次へのエネルギーとなることでしょう。また、この大会はチームワークを深め、他大学との交流を楽しみ、自分自身を乗り越える力を実感できる貴重な場です。私たち歯学体委員は、皆さんが日々努力を重ねてきた姿を常に見守ってきました。学業とクラブ活動を両立させることは決して簡単ではありませんが、あきらめずに前向きに挑戦し続けるその姿勢には心から誇りを感じています。保護者や先生方、先輩方も皆さんを応援しており、これまで支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを力に変えてください。大会に向けて、歯学体委員は皆さんが安心して競技に取り組めるよう引き続きサポートしていきます。自分の力を最大限に発揮し、思い切り挑戦してください。(第5学年)

学生会から



学生会会長 赤松 孝則

令和7年度学生会会長を拝命いたしました、第5学年の赤松孝則と申します。本学の建学の精神である「自主創造」のもと、学生会は学生による自治組織として活動しております。

今年度は「下学上達と修養の励行」を活動の指針とし、新たに「学修向上委員会」を設置いたしました。本委員会では、進級・CBT・国家試験といった難関を乗り越えてきた上級生の知見を、後輩の皆さんへ伝える場として、座談会や勉強会などを企画・運営してまいります。学生同士が「切磋琢磨」しながら学び合い、国家試験合格を見据えた学習環境づくりに努めてまいります。また、学業面にとどまらず、球技大会や桜歯祭といった学部行事をはじめ、各種委員会活動や部活動などの課外活動を通じて、人間性の向上にも力を入れております。

人と人とのつながりや日々の経験から学びを得て、歯学という学問を修めていく学生生活を支えられるよう努め、全学生の成長に寄与できる学生会を目指してまいります。今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(第5学年)

桜歯祭に向けて



桜歯祭実行委員長 佐々木 康輔

桜歯祭が、2025年10月31日(金)・11月1日(土)の2日間にわたり開催されます。今年度は、歯学部ならではの専門性と学生の創造力を融合させた、体験型かつ交流重視の学園祭を目指しています。

桜歯祭は、本学部学生にとって貴重な経験ができる行事です。素晴らしいものを創りあげようと仲間と過ごす時間、努力、交わす言葉、すべてが心に残る大切な思い出になるはずです。その中心に立つ責任の重さと、学園祭を創り上げる面白さを、今まさに実感しています。

桜歯祭は、学生・教職員・ご来場される皆様がつながる、かけがえのない時間です。そして、現在、桜歯祭に来場された皆さんが、「来てよかった」と感じられるように、誰かの笑顔のきっかけになるように、そんな思いで準備に取り組んでいます。桜歯祭が開催される2日間をぜひ楽しみにしててください。実行委員一同、たくさんの笑顔に出会えることを願い、皆様のご来場を心よりお待ちしております。(第4学年)

実験動物慰霊祭

4月12日(土)、歯学部実験動物慰霊祭が両国の回向院にて執り行われました。春の暖かい気候の中、教職員、大学院生、学部学生ら約90名が参加しました。

住職からの法話の後、心身に染み渡る読経に続き、武市学部次長、佐々木事務長の指名焼香と参列者の焼香が行われ、本学部の教育や研究のために供された動物の冥福を祈りました。慰霊祭を終えるにあたり武市学部次長が、参列への御礼を述べるとともに、「動物実験を行う際は3Rの原則（代替・削減・改善）を徹底し、実験動物への感謝の気持ちを忘れずに取り組んでほしい」と挨拶されました。





日本大学歯学部に 感謝して

山岡 大



私は幼少期から目覚まし時計、ラジオ、白黒テレビ等、家中の故障した物を分解しては組み立てることに夢中であった。親戚の電気屋さんからの教えもあって、ラジオが修理できたときの満足感から無線に興味を持った

のもこの時期である。この無線への興味から、中学時代には海上無線通信士あるいは航空管制官等の通信士になりたいという夢を持つようになり、これを叶えるためには工学系の大学に進学する必要があると思うようになった。

大学では通信回路の勉強に力を注ぎ、熱心に指導してくれたゼミの先輩である大学院生の基、半田ごてを持って基板上に回路を作製する、まさに「ものづくりの精神」を学修した。その先輩からの学びは今の私のキャリア形成の原点となったと言っても過言ではない。その後、大学院では先輩の影響もあって超伝導素子の研究を希望し、恩師である山本寛先生（現常任監事）の研究室の門を叩いた。

山本研究室では、研究者としての基本はもちろんのこと、様々な経験をさせて頂いたが、その中でも一番記憶に残っているのはノーベル物理学賞を2回授賞したJohn Bardeenが超伝導転移温度に興味を持って来室したことである。我々にとって神様みたいな研究者が突然やってきて対話できたのである。対話といっても我々大学院生が流暢に英会話をできるはずもない。しかし、Bardeenは熱心に会話に耳を傾けて丁寧に測定データを読取ってくれた。その姿を見て、データという言葉で意思疎通ができることに興奮したものである。そして、私にとって人生の転機とも言える「相対値法による根管長測定器の開発」という研究テーマと巡りあったのである。

このテーマでは新しい成果を世に出すまでに紆余曲折があったが、それを支えてくれたのは歯学部の先生方である。先輩より手解きを受けた通信回路の知識と技術、Bardeenのデータを読取る姿、そして支えてくれた歯学部の先生方によって世界で利活用される歯科医療機器の開発につながり、歯学部で実践した「ものづくりの精神」を地で行くうちに現在の自分に到達したのである。

まさに日本大学歯学部感謝である。

（教授 基礎自然科学分野）

「百聞は・・・」

宮崎 真至



「百聞は一見に如かず」という諺があります。人から話を聞いて理解したと思うことではなく、何事も自分で体験してみることが大事であるという意味とされています。歯科治療は、それぞれの診療科目にしたがって、それぞれ

の手技を必要とします。そのような観点からは、講義で学ぶよりも、実臨床の現場に出て学ぶことが何よりも手技を取得することに直結するものと考えられます。

一方、歯科臨床は多岐にわたるものであり、すべての症例を実臨床で経験する事は難しいものです。そのような観点からは、本学部の各講座の医局員あるいは卒業して開業している先輩の経験談に耳を傾けることも重要となると思います。自分が知らない、あるいは理解が難しい症例に、どのように対峙していくのかを学ぶことは重要です。同じような症例で、知識としては持っている術式で行われる治療においても、個々の症例では着目点が異なることがあります。そのようなことを学びとることが、今後、歯科医師となる学生にとっても大切なものとなります。

多くの歯科医師が臨床を行なっている大学病院という環境で学ぶことは、歯科医師として成長していくことに関して、とてつもなく良好な環境であると共に、その後の歯科医師としての診療内容を充実させるものと考えています。超高齢化社会にある本邦においては、口腔疾患の治療だけではなく、全人的な背景を理解したうえで処置を進めることも求められています。そのような歯科治療の基本、そして実践を学ぶことが付属歯科病院で可能であり、そのような環境が整備されているわけです。このような学びの場を活用し、多くの国民の口腔健康の向上に寄与できる歯科医師として、そして何よりも、日本大学歯学部を卒業したことを誇りとする歯科医師が多数卒業することを願うものです。

（教授 歯科保存学第Ⅰ講座）

研究マインドのブースト

高見澤 俊樹

筆者は、2012年の7月～2013年の12月まで、日本大学海外派遣制度および佐藤奨学金を利用して、米国ネブラスカ州オマハに所在するクレイトン大学の歯科材料研究室に在籍した。留学後も、ほぼ毎年クレイトン大学を訪れ、共同研究を行うことで多くの研究成果を国際誌に発表してきた。しかし、パンデミックの影響によって渡米が困難となり、計画していた研究も事実上ストップしてしまった。そこで、共同研究の再開と新しい“曲げ疲労強度試験法”の確立を目的に2回目の留学を考えるに至った。宮崎教授の理解もあり、昨年の7月から9月までの2か月間、日本大学海外派遣制度を再度利用して短期留学した。

歯科臨床で使用する修復材料や周辺機器は、数年単位で見た際にはそれほど大きな変化は無い様に感じるが、十年単位で考えるとその変化は大きい。近年では、DXを応用した歯科臨床の進歩は目を見張るものがあり、これらに関する研究についてもアンテナを高く張っていないと、あっという間に時代の流れに取り残されてしまう。一方、臨床系教員が研究に割く時間は、分断されることも多く、研究のアイデアも単調なものとなりがちである。今回、短期の留学ではあったが、研究にフォーカスすることで新しいアイデアを思いついたり、海外の研究者とディスカッションすることで最新の動向や今後の研究方向を確認・共有できたことの意義は大きく、私自身の研究マインドをブーストする良い機会になった。最初の留学時に、恩師のBarkmeier教授に頂いた、“Persistence”という言葉は今でも大事にしている。粘り強く、継続して物事をやり続けることで得られる成果は、その後大きな財産となる。やはり“継続は力”ではあるが、研究マインドの維持には、刺激が必要であることを今回の留学を通じて改めて感じるとともにこの様な機会を頂き、本学関係者に深く感謝いたします。

(准教授 歯科保存学第I講座)



ほけん室
から

ほけん室から

新年度が始まり3か月が経ちました。新しい環境や友達、初めての授業・実習など環境の変化の中ちよつとからだや心が疲れてきている人がいるかもしれません。こんなサインがある人は要注意です。体に現れるサイン(だるい、すぐ疲れる・なかなか眠れない・食欲がない・朝、起きられない) 心に現れるサイン(いつもイライラしている・やる気が出ない・ため息がよく出る)言葉や行動に現れるサイン(まちがう事が多い・身だしなみをあまり気にしなくなった・あまり話したくない)等、悩みがあり自分で解決策が見つからない時は、友達、先輩、先生、親に相談してみましょう。相談するほどでもないかも。そんな時は①体を動かす②今の気持ちを書いてみる③深呼吸する④自分の事を褒めてみる(できない事よりもできる事に目を向ける)⑤湯船につかる⑥早めに寝る。等のセルフケアは心が疲れた時有効な手段です。保健室ではからだのケアは毎週金曜日午後1時から3時米原医師が、心のケアは第2・4木曜日午後3時から5時精神科医の大槻医師が在室し相談も行っています。ひとりで抱え込まず気軽にお願いします。



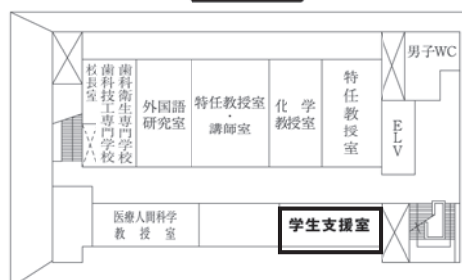
学生支援室より

学生支援室では、皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、様々な相談に応じています。どんなにささいなことでも、気になることや困っていることがあれば、気軽にご相談ください。

電話相談【03-3219-8051(支援室直通)】

ご家族からのご相談も受け付けています。内容について秘密が漏れることは一切ありませんのでご安心ください。支援室は3号館7階にあります。水・木・金曜日の10時～17時と火曜日の11時～18時に、日本大学本部学生支援センター所属の臨床心理士が相談を担当しています(曜日ごとに担当するカウンセラーが異なります)。

3号館7階



第77回日本大学 歯学会総会・学術大会

5月18日(日)、本館大講堂(創設百周年記念講堂)において、日本大学歯学会総会・学術大会が行われました。学術大会での発表演題数は特別講演1題と一般講演17題でした。特別講演では歯科保存学第Ⅱ講座武市収教授が「難治性根尖性歯周疾患へのマクロとミクロのアプローチ」を発表されました。また、一般講演ではこれまで研鑽した研究の成果を発表することで、若手研究者にとって有意義な場となりました。

総会では令和6年度決算・令和7年度予算を含む全案件が承認されたほか、奨励賞授与式が挙行され、青木良太(歯科保存学第Ⅰ講座)、北野晃平(薬理学講座)、高木朝子(歯科保存学第Ⅲ講座)、中島由梨佳(歯科保存学第Ⅲ講座)、井手唯李加(歯科補綴学第Ⅰ講座)、小林桃代(口腔内科学講座)の大学院生および社会人大学院生6名が表彰されました。

日本有病者歯科医療学会

日本大学歯学部および松戸歯学部の両歯科麻酔学講座の共同主催により、第34回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会が、令和7年3月14日から16日までの3日間にわたり、東京都千代田区・御茶ノ水のソラシティカンファレンスセンターにて開催されました。本学会は、有病者や高齢者に対する歯科医療の質と安全性の向上を目的とし、医科・歯科をはじめ多職種の約3,000名の会員で構成されています。今回は「新しい絆の構築」をテーマに、歯科病院見学ツアーや各分野の講演、約150題にのぼる研究発表が行われ、1,000名を超える参加者を迎え、盛会のうちに幕を閉じました。



歯学部進学相談会

6月15日(日)に第1回進学相談会を開催しました。今年度は新たな企画として「学生による歯学部紹介」を加え、全体説明会、校内見学及び希望者に対して個別相談及び校友枠選抜全体説明会を実施しました。また、在校生との対話コーナーを設け好評を得ました。

引き続き、以下の日程で実施します。

	開催日	定員(事前予約制)	受付開始	時間
第2回	7月20日(日)	各回150名 ※定員には同伴者を含む	各回 9:10	各回 10時 開始
第3回	8月24日(日)			
第4回	11月 1日(土)	桜歯祭と共催・相談ブースのみ (事前予約不要)		

※実施内容、申込方法等は歯学部ホームページを御確認ください。

●Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、歯学部紹介や模擬授業の動画、バーチャル校内見学を公開しています。

【問合せ先】

歯学部 教務課

03-3219-8002 E-mail: de.academic@nihon-u.ac.jp

専門学校進学相談会

●令和7年度進学相談会日程

	開催日	時 間	場 所
第3回	7月6日(日)	10:00～13:00 附属歯科技工専門学校 予約制 (当日参加も歓迎)	専門学校 講堂
第4回	8月24日(日)		
第5回	11月1日(土) 駿技祭 翔衛祭	附属歯科衛生専門学校 完全予約制 予約電話 03-3219-8007	日本大学 歯学部 本館内

※令和7年11月1日(土)については、個別相談と学校見学のみ実施

場 所：日本大学歯学部3号館

概 要

- 個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。
- 校内見学：講義室、実習室等を見学します。
- 体験実習：技工専門学校：カラフルな歯を使用してストラップを作製。
衛生専門学校：毎回違う体験実習を用意しています。

■附属専門学校から

歯科技工専門学校

今春、17名の新入生を迎えることができ、第2学年は16名、第3学年は14名が在籍しております。

昨年と同様に、第1学年は321講義室（旧第5講堂）、第2学年は322講義室（旧第6講堂）、第3学年は331講義室（旧第7講堂）で講義を受講し、全学年が第5実習室を使用して歯科技工実習を行っています。今年から新たにCAD/CAMシステムの導入が決定し、さらに充実したカリキュラムの編成を目指してまいります。学生が本校で学ぶことに満足していただけると、教員一同が一丸となって努力していく所存です。また、多くの歯学部兼任講師のご支援により、実習が学生にとって良い環境になっておりますことに心より感謝申し上げます。本年度も皆様のご協力の程よろしくお願い申し上げます。



歯科衛生専門学校

令和7年度は第1学年46名、第2学年32名、第3学年26名の計104名が在籍しています。第1学年は新しい環境に慣れ始め、第2学年は病院実習に向けた臨床的な学修に励み、第3学年は学びの集大成に取り組んでいます。5月22日に開催された歯学部球技大会では、第1学年が総合優勝、第3学年が総合3位と健闘しました。教職員一同、学生が充実した学校生活を送れるよう今後も全力で支援・応援してまいります。



後援会総会

父母を会員とする歯学部後援会総会が6月7日（土）に本館大講堂（創設百周年記念講堂）にて開催された。開催に先立ち名誉会長である飯沼利光歯学部部長、織井弘道後援会会長より挨拶の後、林誠学務担当より学務関係に関する報告、菊入崇学生担当より学生生活の活動に関する報告がなされた。令和6年度決算及び事業報告、令和7年度予算及び事業計画とすべての案件が承認された。

総会終了後、学年別懇談会が行われ、学年主任、クラス担任、学務委員により学務・学生生活に関することが報告された。その後銀座アスターにおいて懇親会が開催された。



NewsPlus α

☆夏季期間中の図書館開館時間

以下の期間は夏季短縮期間となります。

日 程 ; 7/28 (月) ~ 8/16 (土)

開館時間 ; 9:00 ~ 17:00

休 館 日 ; 土、日、祝、休校日

詳細はHPのカレンダーをご覧ください。

<https://www.dent.nihon-u.ac.jp/library/>



☆定期健康診断

5月16日（金）・17日（土）に本学部生、大学院生及び専門学校生を対象として、内科健診、胸部X線間接撮影、尿検査、身長・体重測定等実施され、100%に近い受診率であった。

学 事

歯学部行事予定

8月 24日 (日) 第3回進学相談会

9月 27日 (土) 大学院歯学研究科入学試験 (第1期)

10月 4日 (土) 日本大学創立記念日

11日 (土) 父母懇談会

18日 (土) 外国人留学生選抜・編入学・転部試験

31日 (金) 桜歯祭

11月 1日 (土) 桜歯祭・進学相談会 (相談ブースのみ)

入学者選抜等

令和7年度歯学部入学者選抜 (実績)

一般選抜	試験日	志願者数	受験者数
N全学統一方式第1期	令和7年2月1日 (土)	299名	270名
N全学統一方式第2期	令和7年3月4日 (火)	137名	111名
A個別方式	令和7年2月3日 (月)	278名	250名
C共通テスト利用方式第1期	—	137名	130名
C共通テスト利用方式第2期	—	38名	36名

令和7年度大学院歯学研究科入学試験 (実績)

		試験日	志願者数	受験者数
第1期	一般	令和6年9月28日 (土)	2名	2名
	社会人		3名	3名
第2期	一般	令和7年3月1日 (土)	14名	14名
	社会人		7名	7名

令和7年度附属歯科技工専門学校、
附属歯科衛生専門学校入学試験

歯科技工専門学校は、8月から3月に試験が行われ、志願者20名、
受験者20名、合格者20名でした。

歯科衛生専門学校は、8月から3月に試験が行われ、志願者52名、
受験者51名、合格者46名でした。

第10回 (令和6年度) 歯科技工士国家試験

試験は2月16日 (日)に行われ、本校から11名が受験しました。

科学研究費助成事業採択者

(令和7年4月1日付、課題番号順)

☆**基盤研究 (B)**

山本安希子 篠田 雅路 今井 健一

☆**挑戦的研究 (萌芽)**

今井 健一

☆**基盤研究 (C)**

佐藤 秀一 蓮池 聡 浦田健太郎 山本 清文

人見 涼露 武市 収 津田 啓方 秋田 大輔

篠塚 啓二 中谷 有香 野間 昇 岡 俊一

林 良憲 松本 邦史 大橋 一徳 阿部 仁子

清水 康平 渡辺 孝康 平場 晴斗 岩崎 太郎

二宮 禎 池田 貴之 李 淳 小柳 裕子

岡田 明子 澁田 郁子 菊入 崇 白川 哲夫

近藤 真啓 中井久美子 雨宮 俊彦 岩田 幸一

藤田 智史 藤原 恭子 田邊奈津子 田村 宗明

山崎 洋介

☆**若手研究**

米永 一理 金子 啓介 玉川 崇皓 福井 怜

石山 未紗 関 啓介 岡野 雅春 安川 拓也

渡辺 典久 岡田 真治 河合 佳奈 川崎 詩織

尾辻 盛 小方 彩乃 竹鼻 康輔 間中総一郎

高田 宏起 木谷 仁 古川 明彦 酒井 嶺

☆**研究活動スタート支援**

廣瀬 健佑 チャールストンコード祐

☆**特別研究員奨励費**

川崎 詩織

☆**国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)**

中谷 有香

☆**学術変革領域研究 (A) (公募研究)**

鐸田 武志

学生生活

特待生と奨学生

= 日本大学特待生 =

第2学年 小山 詩織 (乙) 第5学年 中野 喜文 (乙)

第3学年 該当者1名 第6学年 澤田 昌志 (甲)

第4学年 前田 智香 (乙)

= 佐藤奨学生 =

〈第1種〉

(歯学部)

第2学年 箕輪 蒔希 勝見 知峻 西 隆磨

工藤 航 渡部 佳史 酒井 梨帆

第3学年 木村 遼 佐藤 咲歌 梶浦 大暉

楠美 周平 富永 龍 川北雄一郎

第4学年 猪狩 脩 鈴木 夢 後藤 綾那

岡庭 愛実 小峰 悠 久保 琉依

第5学年 本平 一輝 金子 千紘 田中 悠介

中島もなみ 森田 真理 横山 晶

第6学年 ニツ谷和那美 木許 美育 浅本 実樹

池澤 桃香 神林 真由 天野 真未

(歯科技工専門学校)

第2学年 山本 楓

第3学年 中池 有咲

(歯科衛生専門学校)

第2学年 鈴木 未来 高橋 歩花

第3学年 石倉 沙羅 能勢 風花

〈第2種〉

第6学年 北畠有里子 佐藤 太 西出 怜央

ニツ谷和那美 米山 英介

= 日本大学古田奨学生 =

(歯学研究科)

第4学年 青木 良太

= 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生 =

(歯学研究科)

第4学年 滝澤 慧大

= 歯学部同窓会奨学生 =

(歯学部)

第5学年 赤松 孝則 甘利 美奈 今仲 晏智

小澤 心平 堤 有理

(歯学研究科)

第4学年 新井 聡美 小野美紗恵 我喜屋 佑

堀越 大地

お知らせ

寄付金の受け入れ

(5.31 現在)

= 研究助成金 =

100万円	株式会社ジーシー 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 中尾 眞 殿)	2.25
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	2.28
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	3.31
50万円	ULTRADENT JAPAN株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 鍛地 裕司 殿)	4.18
30万円	株式会社松風 口腔外科学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 高見 哲夫 殿)	5.30

= 佐藤奨学・研究基金 =

2万円	後藤 多津子 殿	2.28
50万円	日本大学歯学部後援会 (会長 織井 弘道 殿)	3.31

= 学校への補助費として =

1,595万3千円	日本大学歯学部後援会 (会長 織井 弘道 殿)	3.31
-----------	-------------------------	------

= 日本大学歯学部教育研究資金 =

500万円	日本大学歯学部同窓会 (会長 横江 順 殿)	3.28
-------	------------------------	------

編集後記

今号の巻頭では、篠田先生が出席に関して述べて下さっています。本当にその通りです。歯学部の学費を考え計算してみてください。一コマいくらになるのか・・・今年から、ピのシステムで出席を取っています。授業後に出席結果を見ますと、毎回ほぼ全員が出席していることになっています。しかし、教室に入った途端、明らかに15人程度の空席があることに気が付きます。ピ逃げはクラスの雰囲気が悪くすると思いますし、実際、まじめに出席している学生から不公平との声も聞きます。大学ですので聞きたい人だけ授業を・・・でもいいと思いますが、そうすると特に講義を聞いてほしい学生が休みがちとなります。どの大学も出席調査には苦労しているようですが、出席回数を進級試験の要件にしている大学もあります。そうすると他学部の学生が席に座っていることもあるようです・・・苦笑。授業に関しては教員の努力も必要ですが、何のために大学で学んでいるのかを改めて考えてみてください。(K.I)



表紙及び裏表紙の写真は佐藤紀子先生（健康科学分野）にご提供頂きました。裏表紙の水色で囲まれている写真は上村梨音さん・高橋知聖さん（歯学部第2学年）にご提供頂きました。

